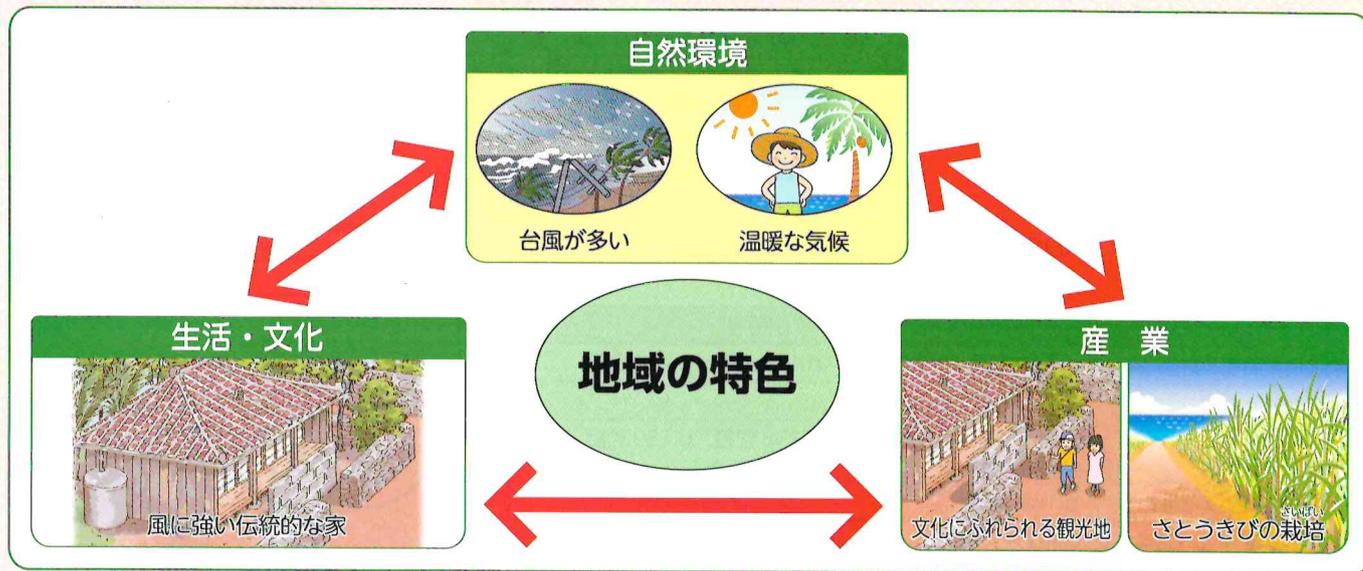


学ぶにあたって

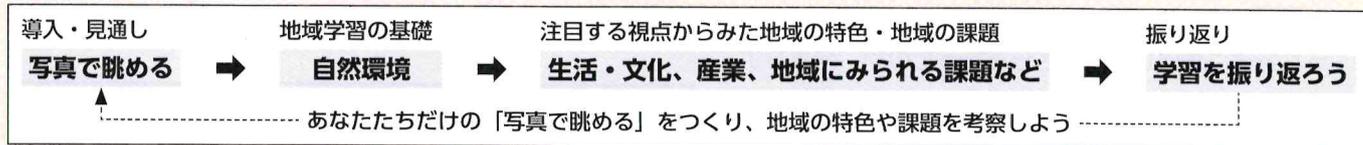
第3部第2章では、自然環境、人口・資源・エネルギーと産業、交通・通信などの視点から、日本全体の特色を学習してきました。しかし、その特色は地方によって異なります。

第3章では、p.164 図3で学習した日本を七つの地方に分ける方法を利用して、日本の諸地域を学習します。各地方には、地域を追究する際に注目する視点が設定してあり(図3)、この視点に注目しながら、人々の生活・文化や

産業など、地域の特色をとらえていきます(図1・2)。また、各地方の特色をとらえる過程においては、地域にみられる課題を人々がどのように克服してきたのか、また課題にどのように取り組もうとしているのか、ということにも目を向けてみましょう。この章の学習を通して、地域社会をよりよくするためには何が効果的なのかを考え、そして私たちは何ができるのかを考えていきましょう。



↑ 地域にみられる事象の関連を示した例 地域のさまざまな事象には関連があります。例えば南西諸島では、「温暖な気候」であるからこそ、「さとうきび」という特産品が生まれ、「台風が多い」という自然環境の課題があるからこそ、「風に強い家」が生まれました。さらに、「風に強い伝統的な家」は、観光資源にもなっています。これらの事象すべてが、地域の特色をつくり出しています。



第3部第3章における各地方の学習の展開

地方	注目する視点	地域にみられる課題
九州地方	自然環境	温暖な気候を生かした産業の発展 火山への対策
中国・四国地方	交通や通信	交通や通信を生かした産業の発展 過疎地域の活性化
近畿地方	環境保全	環境に配慮した産業の発展 自然環境や歴史的景観の保全

地方	注目する視点	地域にみられる課題
中部地方	産業	地域の特性を生かした新たな産業の発展
関東地方	人口や都市・村落	人口の集中を生かした産業の発展 過密への対策
東北地方	生活・文化	伝統文化を生かした産業の発展 伝統文化の継承
北海道地方	自然環境	寒冷な気候を生かした産業の発展 厳しい寒さや雪への対策

各地方における地域を追究する際に注目する視点と地域にみられる課題

九州地方



地図クイズなど



長崎県



吉野ヶ里遺跡 (佐賀県)



長崎くんち (長崎県)



阿蘇山 (熊本県)



沖縄県



ビーチリゾート (沖縄県)



屋久島



博多ラーメンと屋台 (福岡県)



別府温泉 (大分県)



きゅうりの栽培 (宮崎県)



茶とさつまいもの栽培 (鹿児島県)

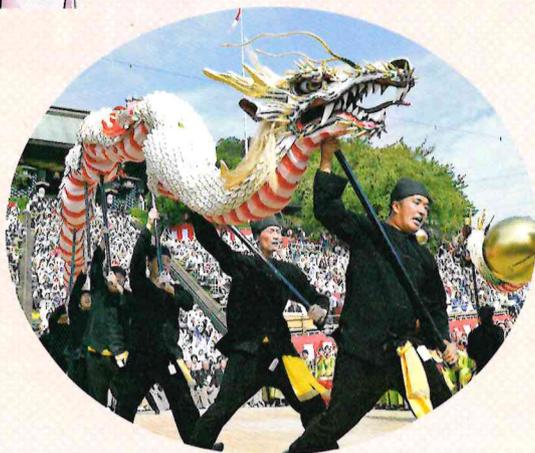


写真で眺める
九州地方



由布岳は火山なんだって！
九州地方は火山が多いのかな？

↑1 由布岳と観光列車「ななつ星 in 九州」(大分県由布市、8月) ➡ p.173



↑2 長崎くんち(長崎県長崎市、2016年) ➡ p.176



↑3 有明海の干潟で行われる「鹿島ガタリンピック」(佐賀県鹿島市、2019年6月)
毎年初夏になると開かれる干潟の運動会で、大人から子どもまで泥だらけになって楽しめます。 ➡ p.171



←4 宮崎平野のビニールハウス(宮崎県宮崎市、4月) ➡ p.175



↑5観光客でにぎわう博多の屋台(福岡県福岡市、2018年) 博多ではラーメンやうどんなど、小麦を使った食文化が根づいています。📍 p.175



↑6日本一の生産量を誇る熊本県のトマト(八代市、12月) 📍 p.175



九州地方はすごく範囲が広いだね！端から端まで何kmくらいあるんだろう？



※数字は写真番号を示す。

沖 縄

7

→7美しい魚やサンゴ礁がみられる南の海(沖縄県、宮古島市沖、2021年5月) 📍 p.178



九州地方の学習を見通そう

📍 p.181の振り返りでは、あなたの考える「写真で眺める九州地方」をつくろう

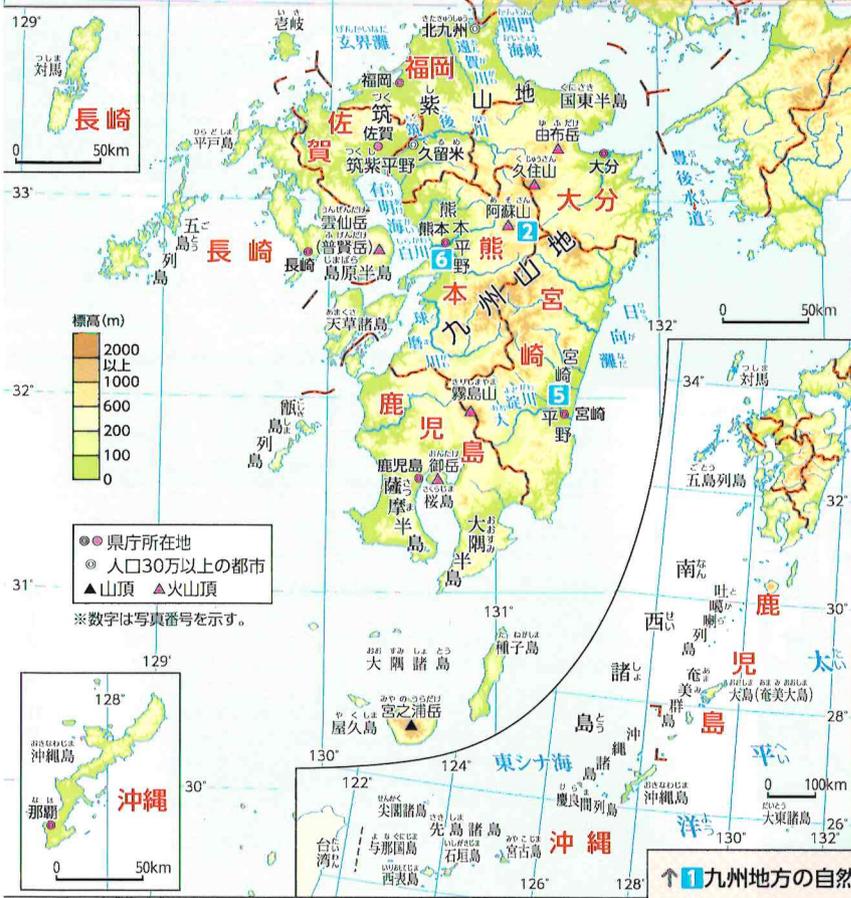
この節では、写真1~7のような九州地方の様子が、特に「自然環境」の視点とどのように関係しているのかを中心に考えていこう。

見通しスライド





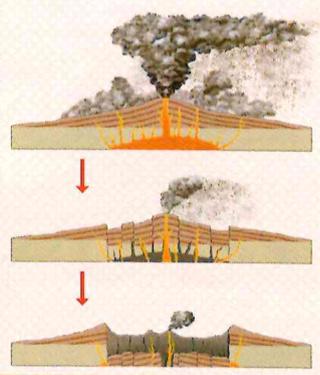
1節の問い 九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。



↑2 阿蘇山のカルデラ

解説 カルデラ

火山の爆発や噴火による陥没などによってできた大きなくぼ地のことです。カルデラを縁取る環状の山々を外輪山といい、カルデラに水がたまるとカルデラ湖ができます。阿蘇山のカルデラは、南北に約25km、東西に約18kmもあり、世界最大級です。



→3 カルデラができる様子

↑1 九州地方の自然

1 九州地方の自然環境



学習課題

九州地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。

面積	九州 37.8万km ²	11.8%	13.4	近畿 8.7	中部 17.7	関東 8.6	東北 17.7	北海道 22.1
人口	1億2541万人	11.3%	8.6	17.7	16.8	34.7	6.8	4.1

(2023年) [住民基本台帳 人口・世帯数表、ほか]

↑4 日本に占める九州地方の割合

① 大隅半島より南にある鹿児島県の島々と、沖縄県の島々の総称です。

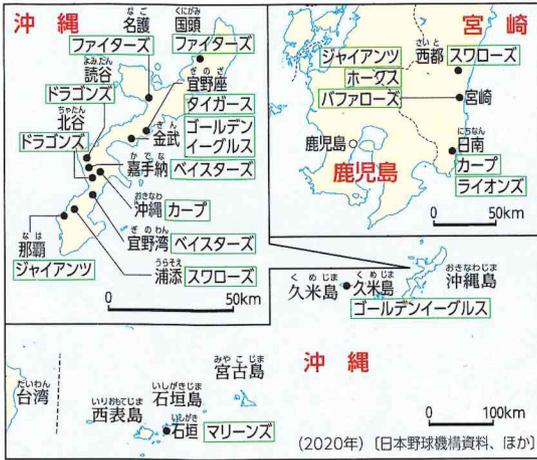
② 満潮時には海面の下になり、干潮時には海面上に姿を現す、砂や泥が堆積してできた低湿地のことです。

活発な火山と特色ある海岸線

日本の南西部に位置する九州地方は、九州とその周囲の島々、さらに九州から台湾に向かって連なる南西諸島からなり、南北に長く広がっています。

九州の中央部には阿蘇山の巨大なカルデラがあり、その南には、険しい九州山地が連なっています。また、西部には雲仙岳、南部には桜島(御岳)や霧島山などの火山があり、現在も活発に活動していて、たびたび噴火しています。九州山地を源流とする筑後川や白川の下流には、筑紫平野や熊本平野が広がっており、佐賀市や熊本市といった都市があります。

海岸線に着目すると、九州の北西部はリアス海岸となっていて、その西に大陸棚が広がる海域をもつ長崎県は、全国有数の漁獲量を



←**5** プロ野球チームの春季キャンプの開催地(左)と練習を見学する人々(上)(宮崎県宮崎市、2023年2月)

未来に向けて **脱炭素で防災力も高める熊本市** **防災**

2016年の熊本地震(→p.146)で大きな被害を受けた熊本市では、震災の教訓を生かし、持続可能な、災害に強いまちづくりに取り組んでいます。例えば、熊本城を中心に周遊するバス「しろめぐりん」に電気自動車(EV)を導入し、災害時には非常用の電源として活用するしくみを整えました。このEVバスは、市内のごみ焼却施設で発電した電気で運行されており、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出ゼロを実現しています。ごみ焼却施設で発電した電気は、市役所や学校などでも利用されているほか、災害時に避難所となる施設のEV充電スタンドにも直接送られています。地域の脱炭素化(→p.157)とともに、災害時にも電気を供給できる体制の構築が進められています。

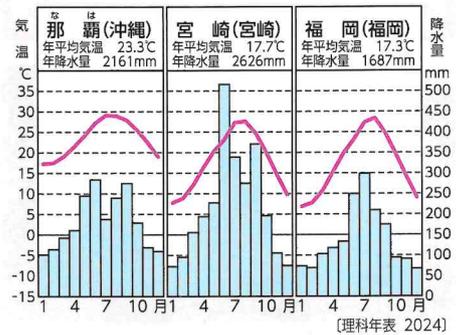


↑**6** 災害時に電源として利用できるEVバス「しろめぐりん」(熊本県熊本市、2021年)

誇ります。佐賀県の南には、日本最大の干潟をもつ有明海があり、日本有数の養殖のりの産地となっています。一方、九州南東部の宮崎平野では、日向灘に面して直線的な海岸線が続き、野菜栽培のビニールハウスが立ち並びます。南西諸島には数多くの島があり、サンゴ礁の海など豊かな自然を求めて、多くの観光客が訪れる島もあります。

温暖で多雨な気候と自然災害

九州は、暖流である黒潮と対馬海流が近くを流れているため、冬でも比較的温暖です。特に、九州南部では冬に晴天の日が多く、さらに南に位置する南西諸島では、冬でも薄着で過ごせる暖かい日もあります。このため毎年2月になると、多くのプロ野球やJリーグのチームが九州南部や南西諸島で、合宿をしながら練習を行っています。一方、夏から秋には、南の太平洋上から湿った季節風が吹き、多くの雨が降ります。雨は梅雨の時期から台風が通過する時期にかけて特に多く、近年は線状降水帯がもたらす豪雨により、洪水や土砂災害が増えています。



↑**7** 九州地方の主な都市の雨温図

③ 次々と発達した積乱雲が上空の風の影響で帯のように連なったもので、激しい雨を長時間にわたって降らせませす。

- ✓ 九州地方の火山の位置と名称を、確認しよう 図1や地図帳で確認しよう。
- 🗺️ 九州地方の地形や気候の特徴を説明しよう 明しよう。



↑ 1 噴煙を上げる桜島の御岳と鹿児島の市街地 (鹿児島県鹿児島市、2018年) 小 鹿 公

2 火山と共にある九州地方の人々の生活

1節の問い 九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。



↑ 2 火山灰に覆われた町なかを歩く人々 (鹿児島県鹿児島市)



↑ 3 鹿児島のテレビ局が放送している天気予報の画面

火山は人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。
学習課題

火山と共に生きる鹿児島の人々

鹿児島市は、約60万の人々が暮らす、九州南部で最大の都市です。その中心部からわずか10kmほどの所にある桜島の御岳は、頻りに噴火を起こす火山として知られています。このように活発な火山の近くに大きな都市があるのは、世界的にもあまり例がありません。

御岳が噴火をすると、鹿児島市には火山灰が降ることがあります。火山灰が降ると、町を歩く人は傘を差したり、ハンカチで口や鼻を覆ったりして、目やのどを保護します。また、毎日の天気予報では桜島の降灰予報が伝えられ、人々は屋外に洗濯物を干すかどうかを判断します。噴火が収まると、火山灰は住民によって、市が用意した専用の回収袋(「克灰袋」)に入れられ、集積所に集められます。

火山の噴火への備え

火山の噴火によって、火口から噴き飛んでくる噴石や、火砕流などは、時に人の命に関わる災害を引き起こしかねません。そのため、桜島には各所にコンクリート製のシェルター(退避壕)がつくられ、噴石などから身を守るように

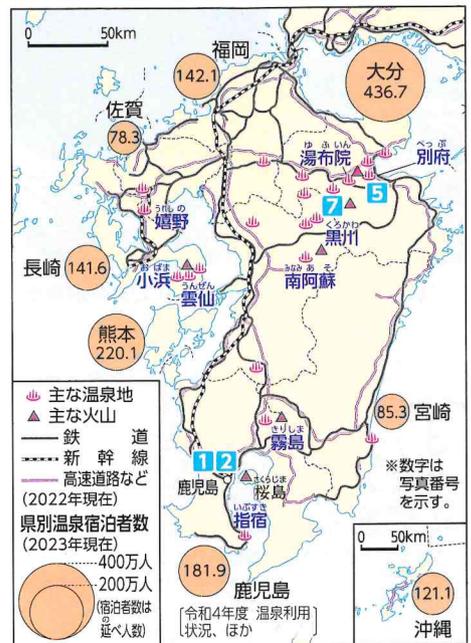
九州地方の最高峰である宮之浦岳がそびえる屋久島には、温暖で多くの雨が降る気候の下、樹齢1000年を超える杉の原生林が残っています。ところが、1993年の世界自然遺産への登録をきっかけに観光客が増加し、巨木の周囲が踏み荒らされるなどの問題が生じました。このため、観察デッキを整備したり、ガイドを通じて観光客に入山マナーを教えたりして、自然保護と観光産業の両立に取り組んでいます。

→4 観察デッキから縄文杉を眺める観光客(鹿児島県屋久島町、2018年8月)



←5 温泉の蒸気を利用した蒸し器(大分県別府市、2016年)

温泉の蒸気で野菜や魚介類などを蒸した料理は「地獄蒸し」とよばれ、観光客や地元の人に親しまれています。



↑6九州地方の主な温泉地と温泉宿泊者数

してあります。また、住民が参加する大規模な避難訓練も定期的に行われており、噴火の際、島の外に避難する経路などを確認しています。このように、人々はさまざまな工夫を通して、火山灰への対策や噴火への備えを行い、火山と向き合って暮らしてきました。



↑7八丁原地熱発電所(大分県九重町) 火山の近くの高原にあり、地熱によって加熱した高温の蒸気を利用して発電が行われています。

5 火山がもたらした豊かな恵み

火山の存在は、時に災害を引き起こす一方で、地下水を温めて、温泉も作り出します。火山の多い九州地方には、日本の温泉の源泉数の4割近くが集まり、大分県の別府温泉や由布院温泉、熊本県の黒川温泉など、全国有数の温泉がいくつもあります。これらの温泉は、古くから貴重な観光資源として、地域の経済を支えてきました。温泉地へ向かう列車や高速バスも多く、国内だけでなく、九州に近い韓国や中国などからも観光客が訪れます。また、町の至る所で温泉が湧き出ており、食べ物を蒸す場所や足湯などにも利用されています。

さらに、火山活動で生じる地熱は、電力を生み出すエネルギー産業にも利用されています。国内の地熱発電所の7割が九州地方にあり、なかでも大分県の八丁原地熱発電所は日本最大級の発電量を誇ります。

✓ 火山と温泉地の分布の関連を、図確認しよう 6や地図帳で確認しよう。

🗨️ 火山が人々の生活や産業に与えている影響について、プラスとマイナスの両面から説明しよう。



シラス台地は
どうやって
できたんだろう？



↑→1 シラス台地の斜面(上) (鹿児島県鹿屋市、2017年)とシラス(右)

3 自然を生かした九州地方の農業

1節の問い 九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。



↑2 シラスの分布



↑3 茶摘み用の機械による収穫 (鹿児島県南九州市)

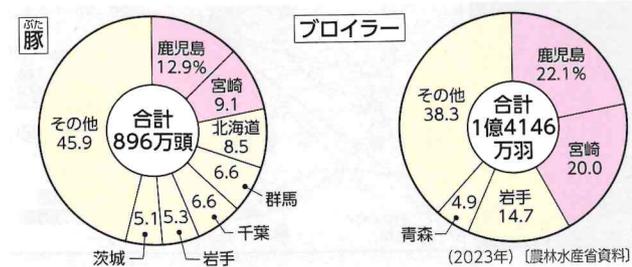
学習課題 火山活動の影響を受けた土地や温暖な気候を生かして、九州地方ではどのような農業が行われているのだろうか。

シラス台地を生かした農業 九州南部には、シラスとよばれる古い火山の噴出物が50～100mにもなるほど厚く積もってきた台地(シラス台地)が広がっています。シラスは養分に乏しいうえ、水を非常に通しやすいため、作物の栽培には向かず、かつてのシラス台地での農業には、大変な苦勞がありました。ところが、第二次世界大戦後、ダムや農業用水の整備によって、シラス台地の農業は大きく変化しました。シラス台地が広がる鹿児島県の笠野原では、水が安定して得られるようになったことで、野菜や茶など、収益の多い作物の栽培が可能になりました。特に、茶は水はけのよい土地に適しており、しかも、台地上の平らな土地では茶摘み用の機械が利用しやすいため、薩摩半島南部でも生産が拡大し、鹿児島県は全国有数の茶の生産県になっています。

畜産が盛んな九州南部 やせた土地の多い九州南部では、家畜の糞を畑の肥料として使うため、古くから牛や豚が大切に飼われていました。その後、シラス台地で水が得られるようになると、家畜の餌となる小麦やとうもろこしなどの作物、牧草の栽培も増え、畜産が盛んになりました。また、高度経済成長期に日本人



↑4 黒豚の飼育(鹿児島県鹿屋市、2018年)



↑5 豚やブロイラー(食用の鶏)の飼育が盛んな県

肉の消費量が増えたことで、九州南部は国内でも有数の豚や鶏、肉牛の産地へと急成長しました。

近年では、安く大量に輸入される飼料を用いたり、企業が農家と契約を結び、牧場を経営したりして、豚や鶏の大規模な畜産が行われています。また、外国産の安い肉に対抗するために、家畜を効率よく育てるだけでなく、おいしくて安全な肉の生産にも力を入れています。そのため、鹿児島県の「かごしま黒豚」や宮崎県の「宮崎牛」や「みやざき地頭鶏」など、各地でブランド化も進められています。

温暖な気候を生かした農業

佐賀県と福岡県にまたがる筑紫平野は、九州でも有数の穀物の産地です。冬でも温暖な気候を利用し、

稲作が終わった後の土地で小麦や大麦などを栽培する二毛作が行われ、近隣の大消費地である福岡県のラーメンやうどんといった食文化も支えています。また、ビニールハウスを利用した生鮮野菜の栽培も盛んです。特に「あまおう」や「さがほのか」など、大粒で甘いいちごは海外でも人気が高く、ホンコン(香港)や台湾、タイなどのアジアを中心に輸出されています。

九州南部は、冬でも温暖な気候を生かした野菜の促成栽培が盛んです。ビニールハウスを利用して、宮崎平野ではきゅうりやピーマン、熊本平野ではトマトなどが生産され、全国に出荷されています。



5月



7月

↑6 筑紫平野での小麦の収穫(上)と田植えの終わった水田(下)(佐賀県神埼市、2022年) 資料活用 2枚の写真が撮影された月に注目しよう。

① 耕地面積を100とした場合の作付延べ面積の割合を耕地利用率といいます。二毛作が盛んな佐賀県は、この耕地利用率が133.7%(2021年)で全国第1位となっています。



↑7 バンコクのスーパーマーケットで売られる福岡県産のいちご「あまおう」(タイ、2021年)

地図帳活用

宮崎平野での促成栽培について確認しよう。

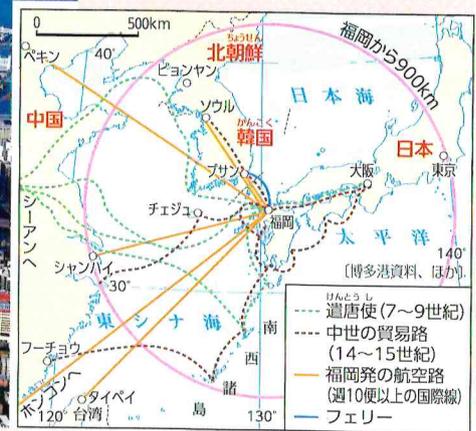
九州南部と北部の代表的な農畜産物を、本文や地図帳で確認しよう。

九州南部と北部の代表的な農畜産物は、どのような地形や気候を生かしているのか、説明しよう。



← 1 博多湾に面した福岡市の市街地(福岡県)

↓ 2 九州地方の位置と大陸との結びつき **小歴公**



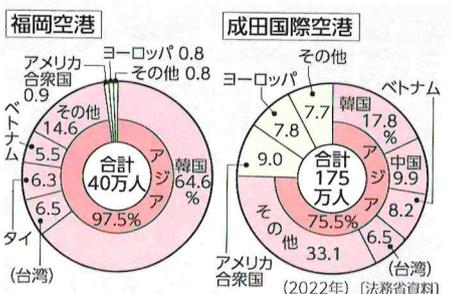
どうして港や街が大きく発展してきたんだろう？

4 都市や産業の発展と自然環境

1 節の問い 九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。

学習課題 アジアの国々に近いということが、九州地方の都市や地域の産業の発展にどのような影響を与えているのだろうか。

大陸に近い都市、福岡 福岡市の海の玄関口である博多湾は、周囲を陸地に囲まれているため、季節風による荒波が押し寄せ、冬でも波が穏やかな天然の良港です。そのため、福岡市は古くから大陸との貿易を行う港町として発展してきました。現在でも、大陸との近さを生かし、中国や韓国をはじめとするアジアの国々との交流が盛んです。福岡空港は、アジアの主要都市と航空路線で結ばれているほか、博多港はクルーズ客船が立ち寄る回数で日本有数の港になっています。



↑ 3 福岡空港と成田国際空港を利用する訪日外国人の国・地域別割合

九州の中心都市としての役割 福岡市には、政府の出先機関や大企業の九州支社などが集中していて、東京などとの活発な



↑ 4 クルーズ客船からバスに乗り換える外国人観光客(福岡県福岡市、2024年2月)

人の往来があります。また、福岡市と長崎市を結ぶ西九州新幹線が2022年に部分開通するなど、福岡市は九州の各都市とも鉄道や高速道路によって短時間で結ばれています。さらに福岡市には、大学などの教育機関が集中し、若い人も多く、人口増加率も高いため、新しい企業が集まりやすいという特徴があります。

このように福岡市は、政治や経済、文化において九州地方の中心的な役割を担っており、現在では人口約160万の九州最大の都市として、周辺の市町村を含めた福岡都市圏を形成しています。



↑ 5 官営八幡製鉄所 (福岡県北九州市、1912年) **小 歴 公**

声 観光客に案内する人の話

官営八幡製鉄所は当時最先端のドイツの技術を導入してつくられました。本事務所や鍛冶工場など創業期の建物は、現在も製鉄所の敷地内に残されており、日本の近代化に関わった施設の一つとして、2015年に世界文化遺産に登録されました。眺望スペースから見学できるので、国内外から多くの観光客が足を運んでくれます。



工業の発展とその変化

鉄は産業の近代化に不可欠な資材ですが、その製造には石炭と鉄鉱石が必要です。地層に豊富な石炭が含まれる九州北部では、江戸時代から筑豊炭田をはじめ、多くの炭田で石炭が採掘されていました。海に面した北九州市は、筑豊炭田に近く、当時の鉄鉱石の輸入先であった中国にも近かったため、原料の調達に適していました。1901年に官営八幡製鉄所がつくられ、鉄鋼業を中心とした北九州工業地帯へと発展しました。

第二次世界大戦後には、国内外での鉄鋼業が盛んになるにつれ、北九州工業地帯の工業生産は停滞し、また、水質汚濁などの公害も深刻化しました。しかし、現在の北九州市は、公害を克服する環境保全の取り組みが進み、高度なりサイクル技術をもつ企業も集中するなど、環境分野で世界的に注目される地域になっています。

九州では、1970年代に集積回路(IC)の普及とともに電気機械工業が盛んになりました。1990年代以降は、外国企業との競争激化とともに閉鎖される工場が増えましたが、近年では半導体の世界的な需要の高まりを受けて、再び工場の進出が増えています。また、九州北部には、大規模な自動車の組み立て工場が進出しており、近くの港からアジアや北アメリカなどに自動車が出荷されています。

未来に向けて

公害の街から生まれ変わった水俣市

環境・エネルギー

八代海に面する熊本県水俣市では、1950～1960年代にかけて、神経や筋肉が侵される水俣病が発生しました(→p.182)。その原因は化学工場から出された廃水でした。廃水に含まれる有機水銀により海が汚染され、そこで育った魚などを食べた住民に健康被害が生じました。

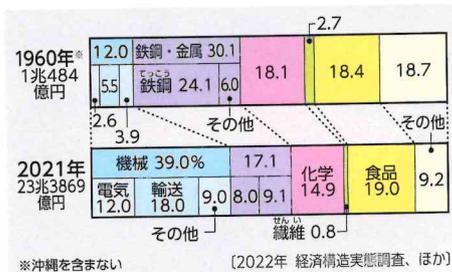
1970年代から汚染された海を浄化する取り組みが行われ、現在ではきれいな海を取り戻しました。1990年代からは、全国に先駆けてごみの分別処理を徹底するなど、さまざまな環境保全活動が市を挙げて始められました。現在では、市民と行政、企業が協力し合いながら、持続可能な社会の実現を目指しています。



↑ 6 コンテナにごみを分別する市民(熊本県水俣市、2016年)

地図帳活用

- ①北九州工業地帯の変化を確認しよう。
- ②北九州市の環境保全の取り組みを確認しよう。



九州地方の工業出荷額

解説 集積回路(IC)

半導体の一種で、シリコン(ケイ素)の結晶でつくった薄い基板の上に、超小型の回路を集めた電子部品のことです。パソコンやテレビなど、ほとんどの電子機器に組み込まれています。

確認しよう
福岡市と博多湾、八幡製鉄所と筑豊炭田の位置を、地図帳で確認しよう。

説明しよう
福岡県の都市や工業が発展した理由を、アジアの国々との位置関係から説明しよう。



とてもきれいなビーチ
だね！この白い砂浜は、
サンゴや貝殻から
できているらしいよ！



↑1 青い海と白い砂浜が観光客に人気のビーチ (沖縄県恩納村、7月)

5 南西諸島の自然と人々の生活や産業

1 節の問い 九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。



↑2 伝統的な住宅が残る町並み (沖縄県竹富町、2022年3月) 小 藤 公



↑3 マングローブの原生林をカヌーでめぐるツアー (鹿児島県奄美市、2021年10月) 奄美大島には、島で独自の進化を遂げた固有の生物種が多くみられます。

南西諸島の自然環境は、人々の生活・文化や歴史、産業とどのように関わっているのだろうか。
学習課題

南西諸島の自然と生活 九州の南に位置する南西諸島には、一年中温暖な気候の下、サンゴ礁の美しい海、マングローブやハイビスカスといった植物など、日本のほかの地域とは異なる自然が広がっています。また、南西諸島に接近する台風は、風雨が強く、人々の生活に大きな被害を与えてきました。伝統的な住宅では、サンゴを積み上げた石垣で囲み、屋根を低くしてかわらをしっかりと固定するなどして、暴風の被害を防いできました。最近では、瓦屋根の住宅に代わって、鉄筋コンクリートの住宅が多くなっています。

自然を生かした産業 南西諸島では、美しい自然と独自の文化を生かした観光産業が盛んです。希少な動植物が多いことから、2021年には、奄美大島や徳之島、沖縄島北部、西表島が世界自然遺産に登録され、国内外から注目を集めています。南西諸島への観光客は2000年代から急増し、近年では沖縄島だけでなく石垣島や宮古島などの離島でも、リゾート開発が本格化しています。一方で、農地や開発中の土地に強い雨が降ると、海へ土砂が流出してサンゴが死んでしまうため、農地周辺に植物を植えたグリーンベルトをつくることや、条例の制定などの対策がとられています。

また、南西諸島では、温暖な気候を生かして、日照りや台風にも



↑4 さとうきびの収穫 (沖縄県南城市、2023年2月)



↑5 菊の栽培 (沖縄県うるま市、2023年2月) 温暖な沖縄では、冬でもビニールハウスを使わない露地栽培が可能です。電灯の照明を調整して、出荷量が少ない時期に花が咲くようにしています(→ p.225)。

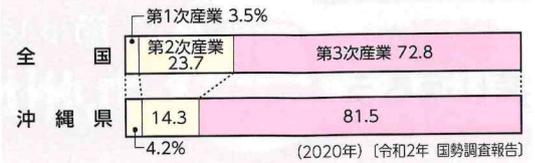
強い、さとうきびの栽培が盛んです。収穫されたさとうきびは、島の製糖工場で砂糖に加工されるなど、島々の経済を支えてきました。近年では菊やパイナップル、マンゴーなど、収益の多い花や果物の生産も活発で、東京などに出荷されています。さらに、冬の間

5 も牧草が育つ利点を生かして、肉牛の飼育も盛んです。

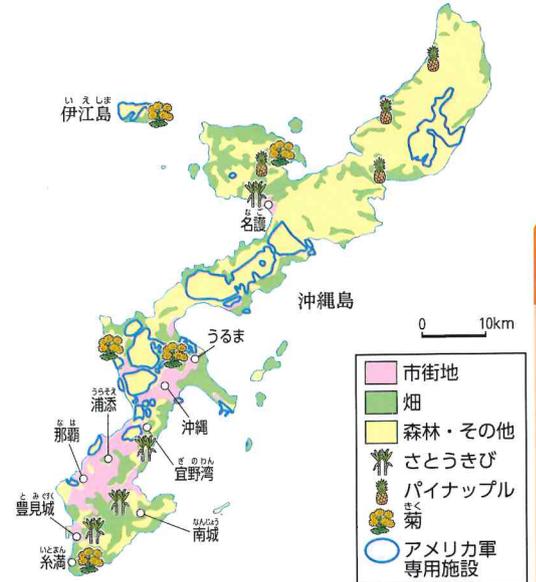
アジアとの交流の歴史

南西諸島は中国や東南アジアに近いので、人々は古くから船で行き来していました。特に、15世紀前半に成立した琉球王国は、アジア各地で積極的に交易を行い、独自の文化を开花させました。首里城などの史跡や、織物や染め物などの伝統的工芸品、三線による芸能、郷土料理などが現在も受け継がれ、貴重な観光資源にもなっています。

また、沖縄は第二次世界大戦中に戦場となり、1972年までアメリカ軍の統治下に置かれていた歴史があります。今なお、沖縄島の約15%の土地がアメリカ軍の専用施設に使われています。市街地に隣接した基地で軍用機が離着陸することによる騒音など、住民生活にさまざまな問題を引き起こしています。



↑6 沖縄県の産業別人口の割合 (資料活用) 全国と沖縄県の第3次産業の割合に注目しよう。



↑7 沖縄島の土地利用 広大な土地がアメリカ軍の専用施設に使われています。 (小歴公)



↑8 琉球王国の時代から行われる組踊 (沖縄県浦添市) 組踊は、音楽や舞踊などを組み合わせた伝統芸能です。2010年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。 (小歴公)

✓ 南西諸島の自然環境の特徴を、写真確認しよう 真1~5や地図帳で確認しよう。

🗨️ 南西諸島らしい生活や産業を一つ挙げ、どのような自然環境と関わりがあるのか、説明しよう。



1 節の問い

見方・考え方 人間と自然の関わり (→巻頭 8)

九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。

節の振り返り 1

学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう

知識

地図帳活用

1. A ~ H にあてはまる県庁所在地名と、その県名を答えよう。
2. ㉑ ~ ㉒ にあてはまる平野名、山名、山地名、諸島名を答えよう。
3. ① ~ ⑧ にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

〔C〕 (→p.176)

- ・大陸との貿易を行う港町として発展
- ・九州地方最大の都市

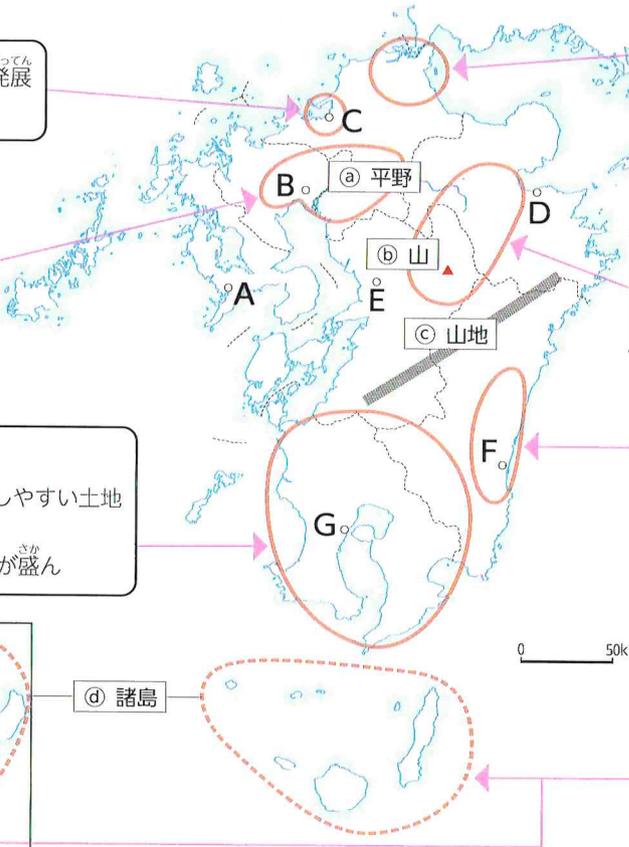
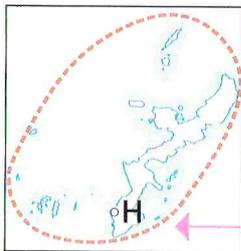
〔㉑〕 平野 (→p.175)

- ・九州有数の穀物の産地
- ・1 年間に 2 種類の農作物を栽培する〔①〕が行われてきた
- ・生鮮野菜の栽培も盛ん

シラス台地 (→p.174 ~ 175)

- ・桜島(御岳)などの〔②〕がある
- ・〔②〕の噴出物でできた、水を通しやすい土地
- ・野菜や茶などの栽培
- ・飼料作物の栽培と合わせた〔③〕が盛ん

〔㉒〕 諸島



九州の工業 (→p.177)

- ・官営の八幡製鉄所から、鉄鋼業を中心とした〔④〕に発展
- ・現在は集積回路(IC)の生産や自動車産業が盛ん
- ・〔⑤〕を克服した環境保全の取り組み

〔㉒〕 山・別府周辺 (→p.170、173)

- ・全国有数の〔⑥〕がいくつもあり、観光資源になっている
- ・地熱発電が行われている

宮崎平野 (→p.175)

- ・冬でも温暖な気候
- ・野菜の〔⑦〕が盛ん

〔④〕 諸島 (→p.178 ~ 179)

- ・数多くの島々がある
- ・一年中 温暖な気候
- ・〔⑧〕の美しい海
- ・さとうきびや菊、パイナップルなどの栽培
- ・観光産業などの第 3 次産業が盛ん

↑ 1 白地図を使ったまとめ

節の重要語句

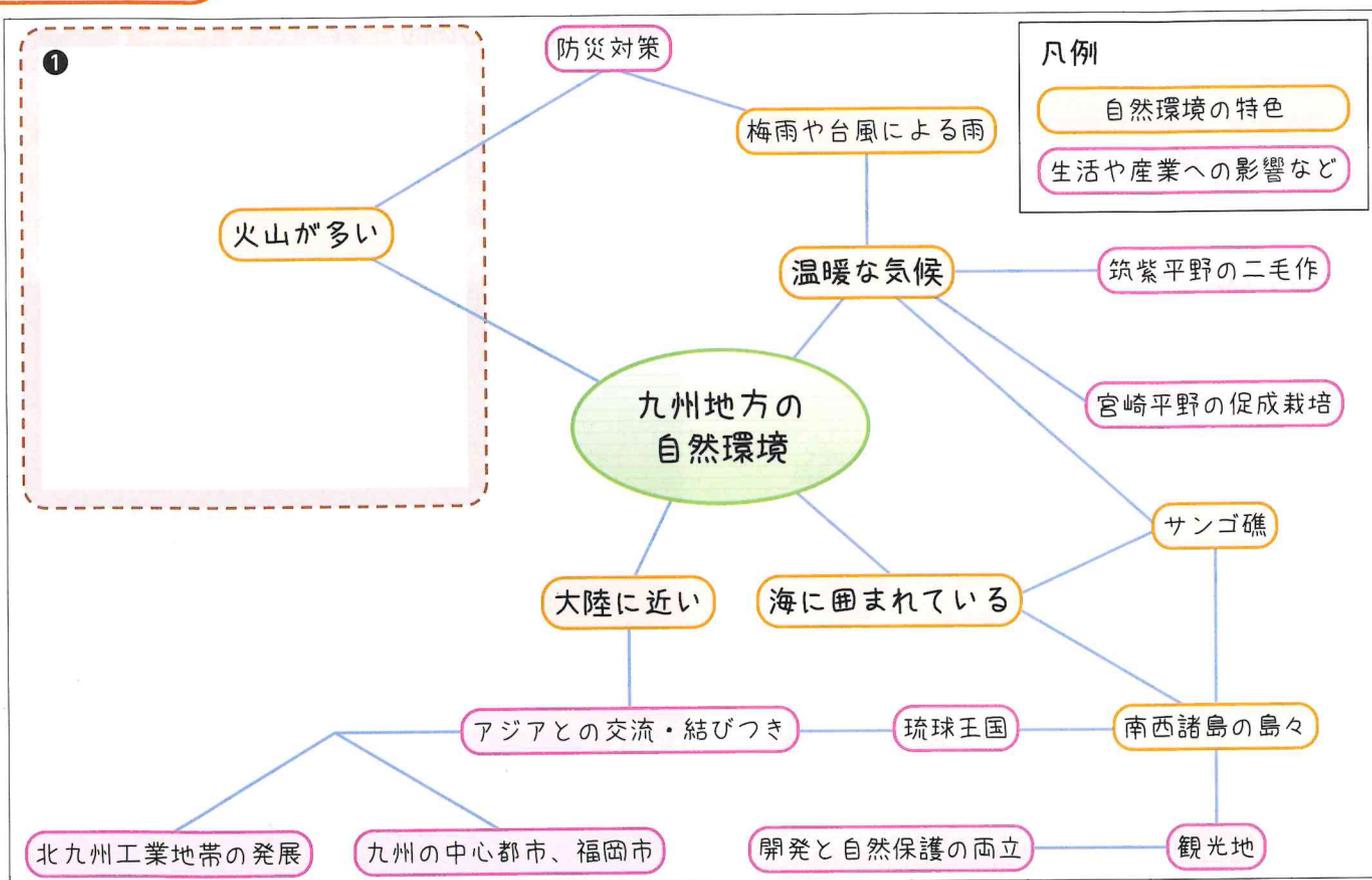
簡単な説明ができた語句にチェックを入れよう。

- 南西諸島
- カルデラ
- 火山
- リアス海岸

- 梅雨
- 台風
- 温泉
- 地熱発電所

- シラス台地
- 畜産
- 二毛作
- 促成栽培

- 北九州工業地帯
- 公害
- 集積回路 (IC)
- サンゴ礁



↑ 2 自然環境の特徴に注目して九州地方をまとめた例 思考ツール 巻頭9 ウェビング

1 節の問いについて、図でまとめよう

◆この節の学習を振り返りながら、図2の①を埋めて、自然環境の特徴に注目した九州地方のまとめを完成させよう。

2 節の問いについて、考えを深めよう 対話

- ◆図2をもとに、九州地方の自然環境が人々の生活や産業に影響を与えていることが分かる写真と、その写真を補足するための資料(写真やグラフ、地図)を一つずつ、教科書や地図帳、ウェブサイトなどから選ぼう。
- ◆グループになって、選んだ写真や資料とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの「写真で眺める九州地方(→p.168～169)」をつくり、地域の特色を示すタイトルをつけよう。

3 節の問いを踏まえて地域の特色をまとめよう

◆図2と②をもとに、九州地方の特色を文章で簡単にまとめよう。

1 節の問い

九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。

- ヒント1** 九州地方の人々の生活や産業の背景となる自然環境の特徴は？
- ヒント2** 自然環境の恩恵や課題、これらに対する人々の生活の工夫は？

振り返り

主体的な学び

- 節の問いの解決に向けて主体的に取り組むことが
よくできた できた あまりできなかった
 →よくできた点や改善したい点などを書き出そう。
- 節の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことなどを書き出そう。



未来に向けて

自然環境の再生から資源循環型社会へ

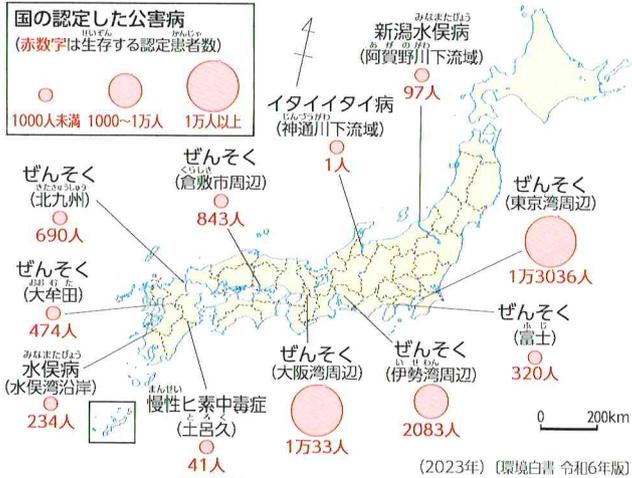
～工業の発展と公害をいち早く経験した福岡県北九州市～

環境・エネルギー



日本では、産業を発展させるために、もともと存在した自然環境を改変し、さまざまな公害が発生した歴史があります(→ p.177、223)。かつて公害が深刻だった北九

州市は、公害を克服した経験を生かし、現在では「環境モデル都市」に認定されています。北九州市はどのようにして公害を克服し、現在に至ったのかをみてみましょう。



↑ 1 日本の公害 小歴史



↑ 2 海外からエコタウン事業を視察に来た人々(福岡県北九州市)

北九州市の洞海湾は、明治時代には広い干潟があり、くまびびなどの魚介類もとれた、豊かな海でした。その海は官営の八幡製鉄所の建設と同じ時期から埋め立てが行われ、次々と工場が建設されました。そして、東西約20kmもあった湾は、激変しました。こうした開発により、1960年代には工場の排煙で窓も開けられないほど空気は汚れ、ぜんそくなどに苦しむ人々が大勢いました。また、「死の海」などとよばれるほど、海の色も変色していました(写真3上)。

1970年代になると、環境の改善を求める市民運動が盛んになり、煙やばいじんを規制する条例もつくられたため、市民や自治体、企業などが協力した環境改善の取り組みが進みました。



1960年代



↑ 3 洞海湾の変化(福岡県北九州市)

こうして、きれいな空と海を取り戻した北九州市は、公害を克服した経験を生かして、廃棄物を再利用する事業などに取り組んでいます。その中心的な存在となっているのが北九州エコタウン事業です。この事業では、あらゆる廃棄物を再び原料として活用することで、最終的に廃棄物をゼロにする、資源循環型社会の実現を目指しています。このほかにも、太陽光などの再生可能エネルギーを活用するなど、脱炭素社会への取り組みも行われています。

「環境首都」を目指す北九州市は、2018年に持続可能な開発目標(SDGs)(→巻頭1～2)の推進に向けた世界のモデル都市にアジアで初めて選定され、国内外に向けて先進的な取り組みを発信しています(写真2)。